



月にみがきて

令和5年7月24日
千曲市立更級小学校

<文責>
教頭：青木 猛

校長先生のお話(1学期終業式)より

4月6日に始まった74日間の1学期が、今日で終わります。4月6日の始業式で校長先生は、今年の更級小学校の合言葉についてお話ししましたが、覚えていますか。

更級小学校は、「目を上げ 手を組み たくましく進む子」を学校教育目標にしています。その実現を目指して作った、「自分大好き」「友だち大好き」「みんなでやりぬく」という3つの合言葉について、1学期のみなさんの様子から振り返ってみたいと思います。

1つめの「自分大好き」は、学校の様々な学習や活動を通して、みなさん一人一人が「わかった」「できた」と感じながら、自分のことを好きになることだと話しました。校長先生が時々授業の様子を見させてもらうと、どのクラスでも最後までねばり強く学習や活動に取り組んでいるみなさんの姿をたくさん見ることができました。2学期も最後までねばり強く取り組み、「わかった」「できた」をたくさん感じながら、「自分大好き」になるようがんばってください。



2つめの「友だち大好き」は、「おはよう」「ありがとう」「はい」などの言葉を自分から進んで言い、友だちや先生と今まで以上に仲良くなることだと話しました。毎朝校長先生が昇降口に立っていると、たくさんの子どもたちが先生より先に「おはようございます」とあいさつし、ハイタッチをしてくれるので、校長先生は毎朝みなさんから元気をもらえることができてとても嬉しいです。また、縦割り班での活動も始まり、学年が違う仲間と仲良く掃除をしたり遊んだりしている姿もたくさん見られてよかったです。2学期も自分から進んであいさつし、友だちや先生とずっと仲良くなってください。

3つめの「みんなでやりぬく」は、3分間マラソンや縄文まつりなど、全校のみんなで取り組む活動を通して、あきらめない気持ちや、がんばり続ける強い心を育てることだと話しました。先生も一緒に走った3分間マラソンでは、友達と一緒に自分の目標に向かって一生懸命走るみなさんの姿を、たくさん見ることができました。2学期もがんばって走ることを続けると共に、更級小学校の大切な学校行事でもある10月の縄文まつりでは、一人一人が任されたことをしっかりとやりぬき、思い切り楽しんでほしいと思います。

さて、明日から始まる夏休みに向けて、今日はお話を紹介したいと思います。絵本がなかったので読むだけですが、頭の中で様子を思いうかべながら聞いてください。

【どろぼうの親子】

毛涯章平著「ふきのとうの饑別」より

あるところに、どろぼうが居りました。昼間は仕事もせずに家でごろごろしていて、夜になると村や町に出かけていくのです。そうして畑から、お百姓さんが一生けんめい育てた作物を盗んできたり、台所からこそこそと食べ物を失敬して来たりしていました。このどろぼうには、一人の男の子がありました。まだ小さいので、お父さんがどんなことをしているのか、何も知りませんでした。

ある夏の、月の明るい晩のことです。どろぼうは、「今夜は、子どもを連れて行って、見張りをさせながら、どろぼうのやり方を教えておこう。」と考えました。そこで、昼間のうちに見ておいた川向こうのすいか畑へすいかを盗みに行くことにして、子どもに、「今夜は、いいところへ連れて行ってやるから、ついてこい。」と言うと、自分は大きなかごを背負って、先にたってすたすたと出かけました。

すいか畑へ着いてみると、月明かりで大きなすいかがいくつもいくつも畑の中の方に光って見えます。どろぼうは、「とうさんは、あそこに行ってすいかを取ってくるから、お前はここ土手にいて、よく見張りをしておるんだ。そうして、もしだれか来たら、クシャミをして合図をしろ。」と言いつけておいて、畑の中

へ、かごを背負ったまま、静かに入って行きました。しばらく畑の中をあちこち歩きながら、すいかを取っては、かごの中に入れていたどろぼうは、土手の方をふり向くと、しわがれた声で言いました。「おい、だれか見ていないか？あたりを見てみろ。」子どもは、言われたとおりあたりを伸び上がって見回していましたが、あどけない声で、こう答えました。

「どうちゃん。だれもいないよー。だけど、お月様が見ているよ。」

どろぼうは、これを聞くと、「はっ」として思わず、かごの陰に顔を隠しました。頭から冷たい水を浴びせられたような気持ちで、しばらくの間、かごの陰でじっとしたままでした。そのまるくつぼめた肩が、小刻みにふるえているようでした。

やがてどろぼうは立ち上がると、さっき取ったすいかをていねいに畑に返し始めました。そうして恥ずかしそうにうつむいて畑から出てくると、だまって子どもの手を引いて、急いで家に帰りました。とてもお月様のお顔を見ることはできませんでした。翌日からこのどろぼうは、ぶつつりと盗みをやめて、毎日せっせと働くようになりました。それを見て近所の人々は、みんな不思議がりました。

このお父さんは、なぜ泥棒をやめたのでしょうか。

それは、「誰が見ていなくても、お月様やお天道様（太陽）が見ている」から、「誰が見ていなくても悪いことをしてはいけない」ということに気づいたからだと思います。誰が見ていなくても、この世の中にはよいことをする人が沢山いるから、平和でより良い社会が作られているのです。そのことを忘れず、夏休み中も2学期も良い生活をしてほしいと思います。そして、8月23日にはみなさんの元気な笑顔に会えることを、楽しみにしています。これでお話を終わります。

いよいよ夏休み 安全で楽しいお休みにするために

7月25日（火）～8月22日（火）まで、29日間の長い夏休みになります。
特に、以下の点に十分注意して、健康で充実した楽しい夏休みをお過ごしください。
ご家庭でも、ご指導をよろしくお願いいたします。

○「自分の命は絶対に自分で守る」

- ①健康に気を配る ②手洗い・消毒 ③熱中症に気をつける
- ④交通事故にあわない ⑤水の事故にあわない
- ⑥不審者から身を守る（携帯端末などの SNS を含む）

○「ルールを守る」 ①夏休みのきまりを守る

- ②交通安全ルールの徹底（事故にあわない、起こさない）

○「生活リズムを守る。人の役にたつ」 ①早寝 ②早起き ③朝ごはん のリズムを続ける

- ④お手伝いをする ⑤地域行事に進んで取り組む

◎もし悩み事がある場合には、以下のところから相談に乗ってもらえます。

（１） 子供のSOSの相談窓口（文部科学省HP上）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/06112210.htm

（２） 24時間子供SOSダイヤル 0120-0-78310

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyoiku/shido/sodan/sodan.html>

（３） LINE 相談窓口「ひとりで悩まないで@長野」

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyoiku/shido/sodan/line.ht>